

# 職員研修 報告書・レポート

平成30年11月8日(木)9日(金)

氏名： 森島 貴子

① 研修名： 職業リハビリテーション研究・実践発表会

② 研修内容 成果/感想 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動

1 日目～支援技法普及講習（精神障害者支援技法の紹介～アンガーコントロール支援～）

① アンガーコントロール支援の概要・紹介・実施上の留意点

・アンガーコントロール講習の構成紹介を受け、怒りの仕組みの説明とコントロールのステップなど、グループワークを交えて行っている。

怒りの沈め方については、テンカウント法等は、数が増えることで怒りが増す方にはカウントダウンする方法もありとの事で、その方に合わせたコントロール法を活用すると良いことが分かった。怒りの背後にある6つの信念の話は、自分に当てはまる信念があり、気付くことができた。それによって、対処法を検討することができるというわかりやすい支援法で、すぐに登録者の方々に活用できると思ったので、実践していきたい。

② 特別講演（障がい者雇用は『働き方改革』の決め手になる）

～たがいに依存し、たがいに支援し合える関係へ～

解雇ではなく「対話」・発達障害は増えている？・合理的配慮提供における「対話」

成功する障がい者雇用・働き方改革の本質・障がい者雇用による働き方改革

【対話】というキーワードが非常に勉強になる内容だった。障がい者が戦力となることは、今までの経験上充分わかっていることなので、それを企業の方に理解してもらうことが重要だと思った。

③ パネルディスカッション(実雇用率の低い業種における障がい者雇用の取り組みについて)

専門職で、障がい者雇用しづらいという企業が沢山ある中で、好事例が沢山出てきており、勉強になった。特に、失敗事例については、失敗ではなく、次の事例につなげるためのステップとなるという見方で、次に活かすことができているので、非常に参考になった。

2 日目～① 研究発表（発達障害）

問題解決技能トレーニングの改良の取り組みについては、問題状況分析シートの活用により、視覚で自分の問題が理解でき、気付きにつながる。より使いやすく改良していくことを発表しており、一度活用してみたいと思った。

JSTについては、社内研修としての取り組み事例が発表されており、参考になった。企業の方を巻き込んでトレーニングするという発想が自分の中にはなかったもので、共同で支援していくという視点にたって、企画できると良いと思う。機会があれば実践したい。

梅永先生のESPIDDの発表については、はやく本を読みたいと思ったが、まず、その前に「アスペルガー症候群の人の就労・職場定着ガイドブック」をまだ完読できていないので、

読んで勉強したい。ESPIDD は、非常に活用できるツールだと思うので、勉強して活用してきたい。

#### ②研究発表（精神障がい）

企業側の事例から～働く本人に合わせた業務切り出しなど参考になった。どこまで可能なのか企業の状況に合わせた企業支援が求められると思う。

MWSについては、新しい作業が検討されており、興味が沸いた。早く開発されることを望む。

#### ③パネルディスカッション（障がいのキャリアアップについて考える）

障がい特性に合わせた業務はやはり重要だと思うので、アセスメントを受容ししなければいけないと改めて思った。集められる項目を整理していくことが大切だと思った。

#### ④ポスター発表について

SSS の自立センターの取り組みの発表があり、ポスター付近に来た方々へ説明等を行った。SSS 自体の使用をしたことは無かったので、パソコンで実際に見れるようにしていたのが良かった。ACT について質問された際には、返答出来たと思う。次回刈田先生が釧路に来た時には、使用方法もしっかり学び、自分でも登録者の状況が把握できるようになりたいと思う。また、ACT についても、再度深く学び直し、登録者に還元できる様になっていきたい。